

私は今、シンガポールに滞在中である。2021年6月に入国し、複雑な手続きと長いホテル隔離を経て、研究生活を始めた。シンガポールは、東京23区サイズの小さな都市国家で、多民族・多宗教・多言語が共存する社会である。多様な価値観の中で秩序を維持するため、厳しいルールと罰則があることはよく知られている。

新型コロナの対応も、驚きの連続だった。例えば、マスク違反は罰金2万5千円、隔離中の外出違反には罰金85万円や禁固刑、重いケースでは逮捕にいた

シンガポールのコロナ対応

いる。慣れないうちは、うつかり違反してしまわないかと緊張した。日々の行動規制も厳しく、デルタ株が出た7月以降、面会や飲食できる最大数は2人に制限された。8月には早々と、ワクチン完了者しか店舗などへ入れなくなつた。

こうした締め付けに息苦しさを感じたかというとうと、そうでもない。無理なく実現するための技術、工夫、枠組みがあり、むしろ安全や安心を感じた。施策を支える三つのポイントを紹介しよう。

一つ目は、ICT活用である。2014年よりSmart Nation構想を掲げ、電子決済が普及し、行政サービスの94%がデジタル化されている。新型コ

クシーもスーパーの商品も、ミシユランのフレンチも、アプリを使って短時間で目の前に届く。隔離生活中も日用品の入手に困ることなく、むしろ積極的に楽しむた。

二つ目に、多様な人々に対応した実行の工夫である。公共の場で4カ国語が共存するが、ワクチン接種会場でもIDカードを認証後、主言語毎の接種ブースが自動的に割り当てられ、注意事項は主言語で丁寧に説明され、他は服に貼られた色シールの助けで言語レスに手続きが進む。頻繁に変更される行動規制も、視覚的に理解できるよう工夫されている。不安やエラーを減らし、迅速に展開される。

安心・安全提供する

三つのポイント

る。安全監視役である3千人のSafe Ambassadorが、街を巡回して



名城大学理工学部
情報工学科准教授
川澄 未来子

コロナ対策としては、接触追跡用アプリとトークンTracker Togetherを国民が個々に携帯し、訪問記録システムSafe Entryを店舗や学校やオフィスに設置することにより、陽性者との接触判定から検査まで短期で完了する仕組みが作られた。ワクチン接種状況もアプリやトークンで証明できる。さらに、配車・配送サービスGrabの存在も大きい。タ

D-19 Resilienceの標語とともに、経済と健康を両立させるためのロードマップが発表された。大みそか、中止になった恒例のカウントダウン花火に代わってマリナーベイを染めたのは、青色のライトアップだった。メンタルヘルスのセルフケアを促し、最前線で働く人々へ感謝を表す#SeeItBlue活動の色彩である。一貫性のあるメッセージが心に響いた。

かわすみ・みきこ 感性工学
情報デザイン、色彩工学。東京
工業大学大学院総合理工学研究
科博士後期課程修了。

